

## 2024年度

### 「認定こども園野のはな」園の自己評価

2025年2月15日

学校法人聖和学園 認定こども園野のはな

園長 岡村 宣

矢吹町から町立あさひ保育園の民営委託を受けた後、認定こども園野のはなに移行して6年を過ごしてきた。（公設民営含めて8年）

2023年度当初に掲げた野のはなのコンセプトは以下の通りである。

<p style="text-align: center;"><b>「共に育つ」</b> <b>学園の理念、保育の方針を再確認しつつ、</b> <b>子どもと家庭に寄り添い、地域を包む動きを担う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保育者一人ひとりが、自立した保育者として思いと言葉を整えて歩む。 （キリスト教保育の基本姿勢の確認。要領・指針の理解。こども主体の保育の模索。）</li><li>・互いの思いを尊重しあい、認め合いながら、保育への思い、子どもへの思いを共有して歩む。 （子ども理解や支援の在り方など、個々の保育観の模索、園の保育観の共有）</li><li>・子育て家庭それぞれの状況や保護者の思いを柔らかに見渡しながら、共通理解をもって子どもを包む協働性を豊かに発揮する。 （在園児保護者への子育て支援、地域の子育て家庭への支援）</li></ul>
--

#### ◎ 2024年度の課題

入園を希望する子どもたちを受け入れ出来ない状況での歩みとなり、年度途中の受け入れは、保育者確保が出来なければ困難となる。待機児童ゼロ、子育て家庭にやさしい町を目指してきた矢吹町だが、園児受け入れや勤務時間内の工夫など、保育現場に少しでもゆとりをもてるように歩みたい。

ICT化が進む中、計画や記録など、デスクワークの時間や休憩時間を確保するために、午後の時間のミーティングは基本的には行わず、月に1度の夜のミーティングで必要な話し合いを行うようにしたい。保護者からの要望も受け止めて、保護者間の交流の機会を、負担の無い形で実現できるよう、検討したい。

#### ◎ 具体的な計画

- ①ミーティング・研修などは、月に1度、夜のミーティングに集約する。
- ②園内研修の豊かさを保ちつつ、課題に直結する事柄について学び合えるようにする。  
学園の理念、保育方針の理解、担当制の理解、適切な環境構成など
- ③園外研修に可能な限り参加する。（オンライン・オンデマンド中心）  
保育者が研修に出かけることができない状況の中でも、学びの時間を確保する。
- ④コミュニケーションを豊かにする学びを継続する。  
思いを通わせ、共感しながら歩むために。
- ③日常の食育活動の充実。  
保育者の負担感の軽減に配慮しながら、可能な形を模索する。
- ④特別な支援が求められる園児への配慮。  
家庭でのコミュニケーション不足、不適切な養育などにも配慮しながら、必要な支援の在り方を、他の機関とも連携しながら取り組む。
- ④豊かな保護者交流の実現。
- ⑤小学校・保育施設との連携。
- ⑥子育て支援の機能の充実。  
新年度は、保育現場の負担や状況を優先しながら、ポプラの木と協力しながら、これまでの豊かさを保ちつつ、支援を継続する。
- ⑦その他、避難訓練、交通安全指導など、例年通り計画実施していく。（掲載省略）
- ⑧子育ての支援活動。各園で日常的に取り組む部分と、子ども食堂など両園が連動して行う活動など学園内での情報共有を密にしながら展開する。

年度末にあたり、1. スタッフによる自己評価 2. 保護者による利用者アンケートに加え、3. 人権擁護のためのセルフチェックを実施し、2024年度を総括するとともに、「園の自己評価」を行い、2025年度 に向けて課題を明確にしたい。

## 1) スタッフによる自己評価集計

回答者19名

※無回答欄は、担当外の項目

全スタッフ対象（19名）						
(1)職務を遂行する上での資質・能力・適正・良識（全員）	A	B	C	D	無回答	総合
① 経験年数に応じた技術を持ち、ふさわしいスキルを身につけている	1	12	5	0	0	A
② チームとして日々の業務を仲間と連携して行っている（報告・連絡・相談）	12	6	0	0	0	
③ 当番や役割による仕事を理解し、丁寧・確実に行っている	5	13	0	0	0	
④ 服装・髪型・身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全面について気をつけている	15	3	0	0	0	
⑤ 子どもと言葉を交わす時はあたたかく美しい言葉や、日頃なじんでいる言葉を使っている	5	11	2	0	0	
⑥ 園の消耗品や教材など節約して使用し、私用には使っていない。購入品については上司の許可を得ている	18	0	0	0	0	
⑦ 記録物などの提出、期限のある仕事などの日程や時間を守っている。	11	5	2	0	0	
⑧ 就業規則など諸規則を理解し、守り、業務遂行にあたって正確・迅速・丁寧を実践している	8	10	0	0	0	
合計	75	60	9	0	0	
保育担当者（15名）常勤/補助						
(2)保育の基本と目標	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	9	35	15	1	0	B
(3)保育内容、子どもへの対応	A	B	C	D	無回答	総合
設問数18 合計	130	117	18	0	5	A
(4) 保護者への対応・守秘義務	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	41	13	0	0	2	A
(5) 地域・社会とのかかわり	A	B	C	D	無回答	総合
設問数3 合計	22	13	0	0	0	A
(6) 研修と研究	A	B	C	D	無回答	総合
設問数3 合計	11	27	5	1	1	B
(7) 保育の計画性（担任のみ回答10名）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数5 合計	21	13	1	0	0	A
(8) 常勤フリー・補助保育教諭の役割（フリー・補助保育者のみ回答3名）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数3 合計	4	10	0	0	1	B
給食担当者（3名）						
(2) 園の保育理念・保育方針の理解と給食担当者の役割	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	8	4	0	0	0	A
(3) 食事	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	4	4	4	0	0	A
(4) 調理・提供・衛生管理	A	B	C	D	無回答	総合
設問数18 合計	37	13	3	0	1	A
(5) 保育者との連携・守秘義務	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	4	6	2	0	0	B
(6) 給食従事者としての心得	A	B	C	D	無回答	総合
設問数3 合計	7	2	0	0	0	A
(7) 栄養士の役割（栄養士のみ回答1名）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	0	3	1	0	0	B
事務担当者（1名）						
(2) 園の保育理念・保育方針の理解	A	B	C	D	無回答	総合
設問数4 合計	3	1	0	0	0	A
(3-1) 事務業務（初任者～）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数10 合計	2	8	0	0	0	B
(3-2) 事務業務（3年目～）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数7 合計	0	7	0	0	0	B
(3-3) 事務業務（6年目～）	A	B	C	D	無回答	総合
設問数7 合計	2	5	0	0	0	B

## 2) 保護者への利用者アンケート結果

2024年度 認定こども園野のはな

### 利用者アンケート集計結果と今後の取組みについて

2025年2月28日

認定こども園野のはな

園長 岡村 宣

1月に実施いたしました「利用者アンケート」につきまして、多くのご家庭のご協力をいただきましたこと、また、良い評価と共に、忌憚のないご意見・ご要望をいただきましたことを感謝申し上げます。

集計作業が遅くなりましたが、結果をお知らせします。いただいたご意見やご要望をうけての説明や今後の取組みについて報告させていただきます。ご確認の上、今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。（なお、このアンケート結果等は、学園ホームページにて公開させていただきます。）

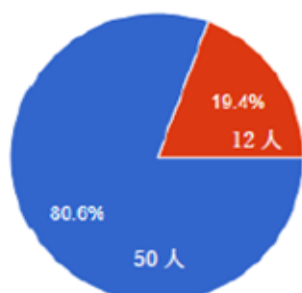
### 2024年度 園利用者アンケート集計結果

【 回答状況 】 在籍数 70名、回答者数 62名 回答率 89%

	てんし	ことり	わかば	そら	はと	あい
在籍数（70名）	4	6	12	14	20	14
回答数（62名）	4	4	10	12	18	14
回答率（83 %）	100%	67%	83%	86%	90%	100%

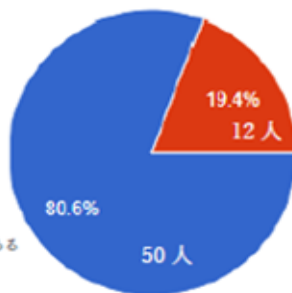
【 各設問での回答割合 】 （%の値は小数点以下を四捨五入しています）

1. 当園は、保育理念・保育目標・保育方針についてわかりやすく伝えている

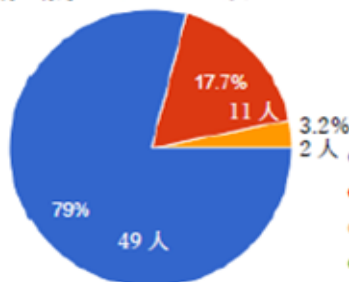


● A: できている  
● B: はばできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

2. 当園は、毎月の園だよりで月ごとの主題・ねらいを伝え、それに沿った保育を展開しようと努力している

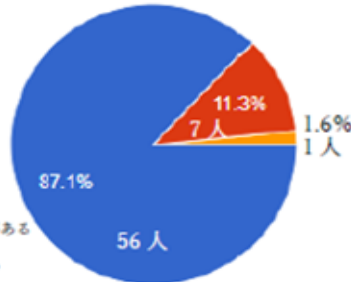


3. 園はクラスだよりなどの配布物、及びおがスマ・インスタ・ホームページなどにより、情報や保育の様子をわかりやすく伝えている

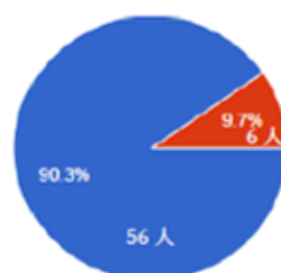


● A: できている  
● B: はばできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

4. お子さんは園生活を楽しんでいる

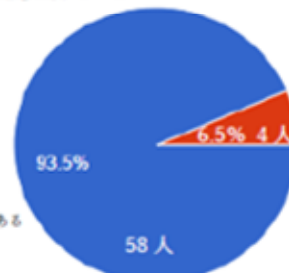


5. お子さんにとって園は、安心できる場所である

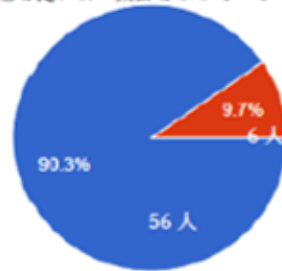


● A: できている  
● B: ほぼできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

6. おさんは保育者を信頼し、一緒にいることで安定を得ている

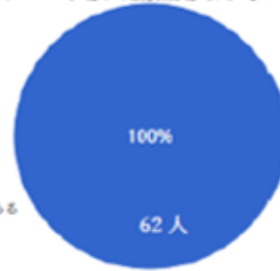


7. 園の行事や活動は、お子さんの成長を支え発達を促すよい機会となっている

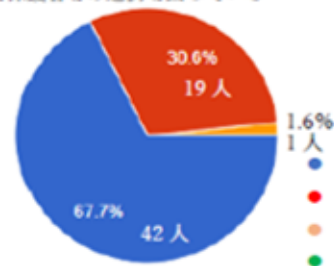


● A: できている  
● B: ほぼできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

8. 給食は、お子さんの栄養を配慮し、バランスのとれた献立となっている



9. 園は、お子さんの健康・発達状況について保護者との連携を図っている

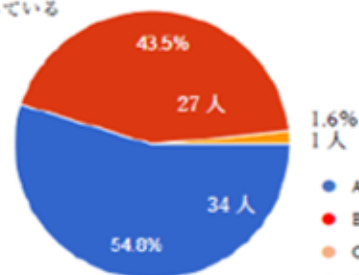


● A: できている  
● B: ほぼできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

10. 園は各家庭の思いに寄り添う努力をしている



11. 園は、各行事や保育参加などを通して、園と保護者及び保護者間の交流を図ろうとしている



● A: できている  
● B: ほぼできている  
● C: 改善が必要な部分がある  
● D: 取組が不十分である

12. 相談や質問・疑問に対する、園の対応は丁寧である



### 3) 人権擁護のためのセルフチェック結果

保育施設における「不適切な保育」による事故や虐待などが報じられる中、当学園では今一度、人権擁護の観点からそれぞれの保育の振り返りの時を持つために、全国保育士会作成の「人権擁護のためのセルフチェック」を実施した。

以下の項目について不適切な行為を「していない」「している（したことがある）」で回答。

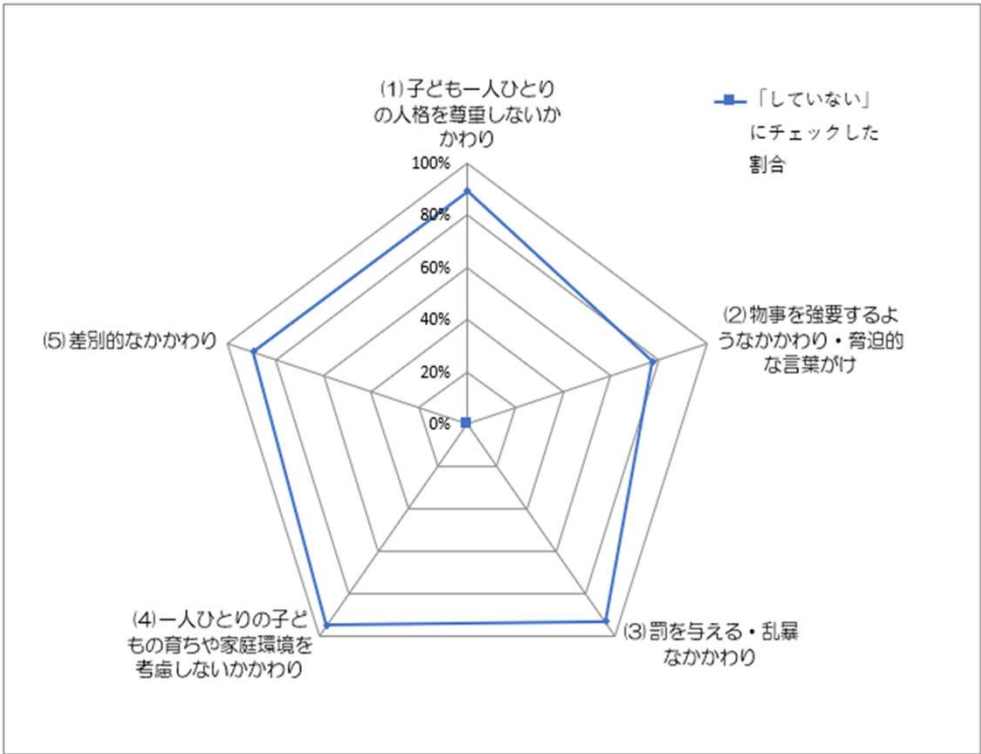
- (1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわりについて・・・10設問
- (2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ・・・・・・・・・・5設問
- (3) 罰を与える・乱暴なかかわり・・・・・・・・・・・・・・・・・・5設問
- (4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり・・・4設問
- (5) 差別的なかかわり・・・・・・・・・・・・・・・・・・5設問

※保育者16名の回答の合計から平均値を算出した。

集計表

	(1)子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり	(2)物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉	(3)罰を与える・乱暴なかかわり	(4)一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しない	(5)差別的なかかわり
「していない」にチェックした数	8.9 個	3.9 個	4.7 個	3.8 個	4.5 個
「していない」にチェックし割合	89%	77%	93%	95%	89%

【レーダーチャート】 ※軸の大きさが大きいほど、「良いかわり」が達成できています。



#### 4) 総括（2023年度評価および2024年度への展望）

① コロナ感染症が5類になったことを受けて、保護者が参加する活動を少し増やすことができた。昨年度採用3名に加え、今年度も2名の新卒者を迎え、若いスタッフを丁寧に指導し、支える主幹保育教諭をはじめとする先輩保育者であった。3年目のスタッフが3歳児・4歳児を担当し、とても生き生きと保育している姿が印象的であった。

② 昨年度同様、学園内の主幹保育教諭が協力しあって、園内研修計画を立て、新卒者、1～4年経験者、中堅保育者と、それぞれに必要な研修を準備し、開催することができた。特に保育経験者が研修を担当することで、資料準備など自分の保育を振り返る良い時だった。学園の保育の根幹にあるキリスト教保育について学び、「招かれている存在」である私たちであることをいつも再確認することからはじまり、神さまから託された幼い命をどう育むのか？について研修を深めることができた。

③ スタッフによる自己評価及び人権擁護のためのセルフチェックについては、主観的な自分への評価であるものの、全体的に課題意識をもって取り組んでいる様子が伺われる。同じ学園のポプラの木で11月「不適切保育・職員のパワハラ」についての投書が矢吹町にあったことから、学園全体のこととしてとらえ、来年度は、「アサーティブコミュニケーション」など、研修で学ぶ時をもち、互いが心から理解しあえる関係性を構築していきたい。

④ 園舎建築計画を断念し、現在の園舎を修繕、補強を行うとともに、園庭も大きく改造し、より豊かな遊びが展開できるようになった。

⑤ 利用者アンケートでは、D評価（取り組みが不十分である）がなく、C評価（改善が必要な部分がある）もごくわずかであった。コメントからも当園の保育を理解し、信頼を寄せている保護者が多いことが伺われる。

⑥ 聖和学園の取り組み（ポプラと合同）である子育て支援活動について、こども食堂及びマタニティ広場に加え、今年度は小・中学生を対象にした子どもたちの居場所づくりとして「ポプラカフェ」を開始することができた。

⑦ 学園では、将来的に児童発達支援事業所（通所）を開設したいと願い、準備を進めている。こども食堂、病児・病後児、こどもの居場所を確保できるよう、こどもセンター（仮称）の建築に取り組む。